

仲良し五人組、中学の頃から五十五年に及ぶ付き合いです。

高齢になり、誰かが欠けていくな…と意識はしていました。

しかし、現実にはその中の一人が亡くなると、予想以上に

淋しい気持ちになる事に驚いています。

中学、高校、そして地元や近隣の町などでの就職と、

つまり何時でも会える、集まれるという五人組でした。

もちろん、人生の様々な場面で付き合いが遠のく時期も

ありましたが、仲間の誰かが、誰かの事情に詳しくなったりと、

結局それぞれ何事も知っている仲が続いたのです。

助けられたり、助けたり、怒ったり、笑ったり。

五人の組み合わせは、実に上手く、人生の役に立った

ものだなあ…と今更ながら思います。

全員が、それぞれの奥さん達から「いっそのこと一つの

マンションに住めば？『養老マンション』て…ねえ？

やればいいじゃない」と同じようなことを言われている

ことに大笑いしたのですが、残念ながら五人とも

見事にお金持ちではなく「離れてるからいいんだよ。

傍にいたら鬱陶しいだろう」と言っていたものです。

仲間の一人が「当たり前だけどさ、これから欠けていくって
いうのも…あー、いやだな」と言っていました。

それでも、笑って見送れるだけの楽しいこと、嬉しい事も

沢山あったのですから、これで良しとしなければいけません。

同じような、よく知っている思い出を持つ者同士の

あったかい日々を、大切に過ごすつもりです。

最初に亡くなったヒロ。もう少し待っていてくれな。

俺たち、もう少し頑張るよ。

リクエスト曲

へ 昭和たずね人

／

石原裕次郎

く